

春



カタクリなどの花が咲くとコナラやシデの新葉が銀色に輝き雑木林を彩ります。

野の花のパートナー 「マルハナバチ」

全国的に、ほったらかしの雑木林、帰化植物の繁茂、山の方での鹿の増加などで、昔と比べ林や野原を彩る野の花に出会うことがめっきり少なくなった。それと共に急速に数を減らしている虫がいる、丸っこくて可愛い姿が特徴のマルハナバチの仲間だ。このハチは幼虫の餌となる花蜜や花粉を大量に集めるので、花にとって大変都合の良い花粉媒介者だ。特に大きめの花やきれいな色の植物にとっては最良のくつろぎ場所である。このハチの減少は特に大きな木本よりも、小さい草本植物の消失に拍車をかける。

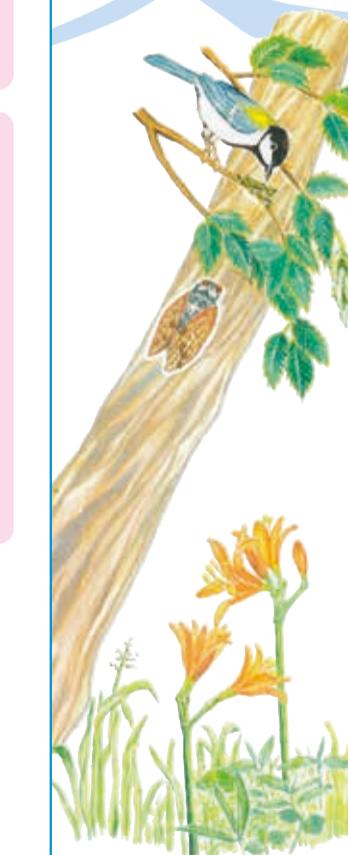
以前カニ山ではコマルハナバチとトラマルハナバチが見られたが、今はほとんど出会えない。それに伴う植物の結実率低下は、カニ山周辺に住む多くの生き物にも影響があると心配されている。



クサボケ
3~5月に花を咲かせる小低木。バラ科でトゲもあるが実は薬用酒になるとか。



夏



ホタルブクロ
6~7月にキャンプ場北に咲くキヨウ科の花。釣鐘型の花は雨で蜜が薄まる梅雨の時期にハナバチたちに歓迎されている。花にホタルを入れると幻想的な美しさ。



野草園前の広場では7月下旬の夕方、穴から出てくるアブラゼミに遭遇することもあります。



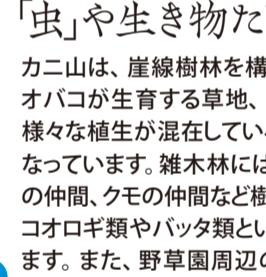
ヤマトタマムシ
夏に野草園西のススキの根元をかき分けると、赤紫色の変わった形の花が見られることがある。ハマツボ科で主にススキから栄養を奪う寄生植物。



ホシミシジ
カニ山は、崖線樹林を構成するコナラ主体の雑木林、シバやオオバコが生育する草地、林縁部を中心に生育する笹やヤブ等、様々な植生が混在しているため、そこに住む動物も多様なものとなっています。雑木林にはクワガタムシなどの甲虫類やチョウ、ガの仲間、クモの仲間など樹林性の生き物が見られます。草地には、コオロギ類やバッタ類といった草地性の生き物を見ることができます。また、野草園周辺の水場では、サワガニが見られるほか、オニヤンマをはじめとする多くのトンボ類を見ることができます。



サワガニ
キシノウエトタゲモ
サトキマダラヒカゲ



オニヤンマ
オオミズアオ

カニ山の四季

秋



里の田んぼの稲刈りが終わる頃には、キャンプ場のシデやモミジが色を変え始め、コナラやスダジイのドングリなどが沢山落ちます。



「鳥」たちのこと

雑木林は野鳥たちが天敵から身を守ることもできる住処となり、大好きな花の蜜に木の実(種)や昆虫も多く、まるで「隠れ家レストラン」のよう。カニ山には四季を通していろいろな野鳥が訪れ、冬はカラ類の混群もみられます。

何を食べてるの?

絵の鳥たちは皆雑食ですが、シジュウカラ・エナガ・ヤマガラは小さな木の実や虫を、冬にやってくるツグミの仲間は落ち葉をかき分け地中の昆虫やミミズを食べています。キツツキの仲間のアオゲラ・コゲラは幹をつついで樹皮の下の虫を食べますが、コゲラの連打は繩張り宣言でもあるそうです。ウグイスは人目につきにくいですが春から秋は昆虫を、昆虫の少ない冬は木の実や種子を食べています。メジロやヒヨドリは甘い蜜が大好き。ツバキやサクラの花に頭を入れて蜜を吸い、花粉まみれになっていることもあります。

冬

セミやカブトムシは地中で夏を待ちます。

木々は葉を落とし、野鳥観察の季節でもあります。



ヤブツバキ
冬から春までカニ山のあちこちで赤い花を咲かせるが、カニ山の会の保全活動場所ではシロバナヤブツバキが咲く。生長は遅く材は固い。日本の照葉樹林の代表種。